

全日本ライフセービング選手権大会・本戦出場枠の考え方について

本件は、第 2020-S017 号「全日本ライフセービング選手権大会・本戦出場枠の考え方について」(2021 年 3 月 29 日付け) で発表した内容をもとに、2026 年度第 52 回大会向けに修正を加えたものである。前年度方針からいくつかの変更点があるため、2025 年度第 51 回大会の要項から、今回新たに変更を加えた箇所は **黄色** の網掛けで示す。

(1) 全日本ライフセービング選手権大会・本戦（以下、「本戦」とする）の実施方法

- ① 準決勝からの実施を基本とする。
- ② 2026 年度第 52 回大会にあつては、昨年度大会と同様に全ての種目において（少なくとも）準決勝からのスタートする（本戦一発決勝の種目は無い）。
- ③ 競技者の数を考慮し、以下の競技に限り準々決勝からのスタートとする。
 - i. サーフスキーレース（男子）
 - ii. ボードレース
 - iii. ビーチブラッグス
 - iv. ビーチスプリント
 - v. ビーチリレー

(2) 新しい出場枠算定方式（2025 年度までの方式から変更あり）

出場枠 = 基本枠 + シード枠 + 出場数枠 + 獲得枠

本戦出場枠は上述の 4 種類に分け、各ブロックに配分する。

- ① **基本枠**
従来どおり、全ブロックに均等配分（全種目全ブロックにおいて「1」枠）。
- ② **シード枠**
同年度「全日本ライフセービング種目別選手権大会」の個人種目上位 8 位入賞者個人。
- ③ **出場数枠**
前年度全日本選手権各ブロック大会の参加者数に応じて加算。
- ④ **獲得枠**
前年度全日本選手権本戦での各種目上位 16 位入賞選手・チーム数に応じて加算。

【改定の狙い】

参加者数が多いブロックは活動の活発さに応じた枠を得られ、参加者数が少ないブロックも一定の基本枠と実績によってチャンスが確保されることで、全国的にバランスの取れた出場機会の提供を目指す。また、より多くのライフセーバーが全日本の舞台を目標に挑戦できる環境を整えることを目的としている。

(3) 本戦出場枠の調整

- 出場枠を行使しなかったブロックがあったとしても、原則として再調整は行わない。
- 出場枠の配分比率算定に参照する前年の大会が中止だった場合には、必要に応じて参照可能な年まで遡る。一部の種目のみ中止の場合には、該当種目のみ遡る。
- 競技者が獲得したポイントは、獲得した時点で所属しているブロックへの付与とする（競技者がポイントを獲得した次の年に所属クラブを変更して出場ブロックが変わったとき、獲得したポイントはブロックをまたいで移動できない）。
- 本戦出場枠の端数の処理
 - i. 獲得枠を比率に応じて配分を計算した際、小数点第一位の大きいブロックから優先して、端数の枠が配分される。
 - ii. ポイント数が同じ場合、8 位入賞した競技者もしくはチームの数が多いブロックから優先される。
 - iii. ポイント数が同じで、8 位入賞した競技者もしくはチームの数も同じ場合、その種目の最高順位を獲得したブロックから優先される。

本戦出場枠の割り振りと、本戦出場者の選出スケジュール（予定）について

- ① 6 月上旬： JLA が 9 ブロック全体を前提とした本戦出場枠一覧を各ブロックに通達。
※今回より、出場枠の再配分調整は行わない。
- ② 7 月下旬： 各ブロックの予選会情報の提出（日程および場所、など）。
- ③ 9 月末日： ブロックが JLA と傘下クラブへ本戦出場者名簿を提出
クラブが JLA へ本戦エントリー費を支払う

(4) 本戦出場者の選出について

- ① 競技者を本戦に出場させたいと考えるブロックは、それぞれの責任において本戦出場者を決定する。
- ② 本戦出場者の決定は、JLA の定める A 種認定競技会を取得した予選会によるものが望ましい。ただし、ブロックの運営体制が整わない場合には公平な選出が実施できれば良いものとし、現時点では予選会の形にこだわらない。
- ③ 各ブロックは、本戦出場にふさわしいライフセーバーであり、競技者である者を、本戦出場者として選出すること。
- ④ 日本代表として国際大会に派遣される競技者が予選会に出場できないおそれがある場合、その競技者をどう扱うかは予選会の主催者に判断を委ねる。
- ⑤ 予選会の時期は各ブロックに一任するが、JLA への本戦出場者名簿提出の締切日に余裕を持たせることと、JLA 主催競技会と日程が重ならないように考慮すること。

(5) 予選会への中学生の受け入れについて

- ① 2026 年 4 月 9 日発表の「2026 年度 競技会運営方針について」
https://ls.jla-lifesaving.or.jp/wp-content/uploads/2026/04/sports_notice_2026-S001_20260409.pdf
に記載のある通り、『中学生の全日本選手権および種目別選手権への参加について』を原則とする。この条件を基本に、各ブロックにおける予選会への参加を受け入れること。
- ② 但し、安全管理体制含めて最終的な受け入れの可否は各ブロックに委ねるものとする。

(6) 本戦出場枠の設計のねらい

- ① ブロックごとに基本枠を割り振ることで、地方からの参加を促し、日本全体でライフセービングスポーツ振興を図る。
- ② 予選会を各地で奨励することにより、ブロック内における都道府県協会の連携・交流を強め、その競技会運営能力を高め、ライフセービングスポーツを楽しむ機会を増やす。
- ③ 競技者が本戦出場枠を獲得することでブロックに貢献し、ブロックは他のチームの競技者も応援する。このような応援を促すことで地域交流を振興し、ライフセービングを盛り上げる。
- ④ エントリー数と実力が比例しないブロックで発生していた、本戦出場枠のブロック間における不公平さを、本戦出場枠を獲得するところからの競争とすることで解消していく。
- ⑤ 決勝に進出する価値、16 位までに入賞する価値を高めることで、競技会を盛り上げる。

(7) FAQ

Q1) ブロックごとの予選会は誰が行うのですか？

A1) ブロック下の都道府県協会で話し合い、主催者を決めていただくようお願い致します。

Q2) 予選会の運営はハードルが高いです。

A2) 予選会は A 認定競技会が望ましいですが、フルスペックの競技会を運営する必要はありません。競技者に公平な条件を作ることができ、また競技者達が納得すれば、極論すればブイ 1 個でのレース実施も可能です。安全を最優先に、予選会の運営を企画いただければと思います。

Q3) 他ブロックとの共催、もしくは他ブロック主催の予選会に参加することは可能ですか？

A3) 可能です。ブロック間で調整ください。注意点としては、JLA に報告する本戦出場者がブロック別であることです。ブロック別にヒートを分ける、ヒートに複数ブロックの競技者がいるとしても順位を別にカウントするなどして、工夫いただければと思います。

(例) A ブロック (5 枠) と B ブロック (3 枠) が合同で予選会を実施した場合、2 つのブロックの本戦出場枠が合わせて 8 枠とはならず、それぞれの枠 (A:5 枠、B:3 枠) に対して本戦出場者を選ぶ必要があります。

Q4) エントリーの取りまとめは JLA でしてもらえますか？

A4) JLA でのエントリーの取りまとめは、本戦のみとなります。予選会のエントリー取りまとめは各ブロック又は各都道府県協会で行ってください。

Q5) 予選会の参加費設定は、どのようにしたら良いですか？

A5) ブロックごとに自由に設定していただいて構いません。

Q6) 赤字が見込まれるのですが、どうしたら良いですか？

A6) 予選会の開催は、収支を含めてブロックごとにご判断ください。参加費や予選会の規模などで収入と支出のバランスを調整いただければと思います。黒字になった場合には主催者の収入となります。

Q7) 運営マニュアルの開示は可能ですか？

A7) JLA 主催競技会の運営マニュアル及び安全規程の開示は可能です。その通りに実施する必要はなく、参考資料としてお使いください。

Q8) ブイなどの器材貸し出しはしてもらえますか？

A8) 可能です。送料や在庫手数料などが発生します。いくつか貸し出しが可能な状態ですが、各ブロックの予選会日程が集中する場合には難しい場合があります。日程調整が必要となる場合がありますので、事務局へご相談ください。

Q9) 予選会の安全管理が不安です。

A9) 安全が確保できる範囲内での予選会実施としてください。安全が確保できない場合には、予選会実施は見送ってください。ライフセービングスポーツ本部「競技安全委員会」がありますので、スケジュールや費用負担などの調整は必要ですが、安全管理を指導する専門委員の派遣の相談が可能です。

Q10) 予選会はいつまでに開催すれば良いですか？

A10) 2026 年の JLA への本戦出場者名簿提出は、9 月 30 日(水)を締切予定としています。毎年同じ時期を目安に締め切りを設定する予定です。

Q11) 予選会が台風で中止となりましたが、どうすればよいですか？

A11) 可能であれば別日に予選会を実施し、本戦出場者を選出して頂くのが望ましいですが、しかしながら最終的な選出方法は各ブロックまたは都道府県協会に委ねます。

Q12) 本戦出場にふさわしいライフセーバーであり、競技者である者は、どのように選出したら良いですか？

A12) ライフセーバーとして活動実績のある方を選出ください。また競技者として最低限の競技力をもっていることを確認するため、選考レースが必要ない場合においても、最低 1 回は該当する種目のレースを行い、その実力を確認することを推奨します。例えば 2 人の本戦出場枠に対して 2 人しか候補競技者がいない場合を想定しています。

Q13) 予選会にて、エントリー資格（選手登録や資格など）を満たしていない競技者を、本戦出場者名簿に入れて提出してしまった場合にはどうなりますか？

A13) その競技者は本戦には出場できません。またその枠を次点の競技者に譲ることもできません。そのため予選会は本戦の参加規程に準じることを推奨いたします。

Q14) 本戦にエントリー費はかかるのですか？

A14) 本戦にはエントリー費がかかります。

Q15) 「公平な選出」について、わかりやすく表現してほしい。

A15) 「全日本選手権に出場するにふさわしい」必要があるので、最低限の競技レベル確認はブロック単位で行うことを希望します。例として、最低 1 回は該当する種目のレースを行い、その実力を確認することを推奨します。ただし、やむを得ずレースが実施できない等、特別な理由がある場合は、JLA として推奨しているわけではありませんが、関係者が納得できる公平な選出方法（例：抽選）で構いません。

Q16) ブロック予選の参加費の設定は一律で提示願う。

A16) ブロックごとに事情が異なると思われるため、それぞれのブロック規模、方針と事情に合わせた参加費設定をお願いします。

Q17) ブロック予選の要項フォーマット、エントリーシートフォーマットの配布を希望する。

A17) 本戦のフォーマットを共有可能です。希望するブロックは事務局までお知らせください。